

土星の環の消失

【土星についての豆知識】

【特徴のある環】

土星の環は一枚の板のように見えますが、じつは細い輪が何本も集まったものです。数センチメートルから数メートルの氷の粒や岩の塊でできています。

【土星の本体】

土星は太陽系では木星の次に大きく、直径は地球の約9倍の大きさです。中心以外のほとんどが水素やヘリウムなどのガスでできており、プールに入れることができれば、水に浮くくらい軽いのです。

【輪の大きさ】

土星の輪は信じられないほど薄く（厚さ10m程）、幅は25万km以上に広がっています。

【衛星の数】

土星の衛星は、現在66個も見つかっています。

表面の温度は-189度

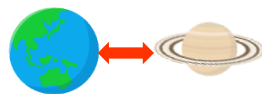


【綺麗に観察するコツ】

惑星は肉眼では見えないので、観察には望遠鏡が必要です。望遠鏡は口径が大きいほど明るく細かい所までよく見えます。街灯などの光があると星は見えにくくなるので、光の少ない安全な場所で星空を楽しみましょう。



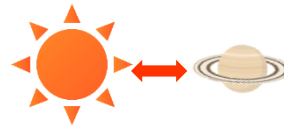
【環の消失現象が起きる3つのタイミング】



①

《地球が輪の真横にある時》

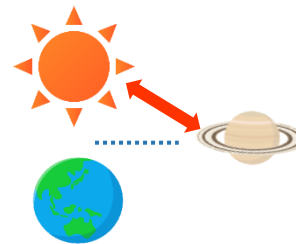
土星の輪の厚みは薄い為、遠い地球から土星の輪を真横に見る位置関係になると輪が見えなくなってしまう。（2025/3/24）



②

《太陽光が輪の真横から当たる時》

太陽が輪を真横から照らす為、輪に太陽の光が当たらず、輪が見えなくなります。（2025/5/7）（2025/11/25）



③

《環に対し、太陽と地球の位置が南北に分かれた時》

地球からは太陽の光の当たらない陰の部分を見ることになる為、輪が見えなくなります。（2025/3/24～5/7）

※2025年は9月21日に土星が「衝（しょう）」となり、観望の好機を迎えます。

衝とは、太陽系の天体が地球から見て太陽とちょうど反対側になる瞬間のこと。衝の前夜の時期、土星は、日の入りの頃に東の空から昇って真夜中に南中し、日の出の頃に西の空に沈むため、一晩中見ることができるのです。



2025年のうちに見られる天体ショー

9/8 皆既月食/日本全国で見られるのは約3年ぶりです。
10/6 中秋の名月（今年は翌7日が満月です。）
11/5 2025年最大の満月
12/13～15 ふたご座流星群の極大

ほかにもあるよ！

参照：国立天文台ホームページ

図書館や本に関する豆知識

図書館の裏側のお仕事 ～休館日編～

カメラアステージ図書館は、毎週火曜日と最終水曜日に休館しています。最終水曜日は、全ての図書を本来あるべき場所に戻したり、迷子の本を探したり、特集展示の入替など、お客様のいらっしゃる日ならではの裏側の仕事をしています。図書館の本の背には、数字やカタカナが書いてあるラベルが貼ってありますが、これはその本のいわば『住所』です。『住所』のとおり順番に棚に戻すことで、だれもがスムーズに本を探せるようになるため、とても大切な仕事のひとつです。また年に一度、所蔵資料の総点検のために休館し（今年は10/2～10/6に実施します）、図書館で所蔵している本が全て揃っているかを、データに照らし合わせて点検しています。見つからない本は棚の下まで覗き込んで探し、同時に書棚を移動させたり、大掃除もする為、スタッフは全員埃まみれになりますが、迷子の本が無事に見つかった時の安心感はひとしおです。今後も皆様に快適に使っていただけるように、全員で館内を整えていきたいと思います。

スタッフおすすめの本



『母の旅立ち』
尾崎 英子//著
CE メディアハウス
916/オ

破天荒な生き方で家族を振り回してきた母の余命宣告から20日間。在宅で看取り、家族葬で見送った四姉妹と父の奮闘をつづった軽快なエッセイです。自分の両親も高齢になり、介護や終活の話が身近になって手にした本ですが、共感したり、終末期の知識を得たり、笑ったりしながら一気に読み終わりました。家族の「死」と向き合うのは心の重いことですが、重くなり過ぎないための心構えを知っておくことで、残された方は随分違ってくるのではないかと思います。自分の仕事も生活もある中で、最後の時に立ち会えるのはなかなか難しい…。もし立ち会えなくても後悔することのないように、父や母と一緒に過ごせる今を大切にしたいです。

（本山）

スタッフよもやま話

幼い頃、宇宙にとっても興味がありました。星座を覚えたり、天体に関する本を買ってもらったり。肉眼でも観望できる月食は一大イベントで、夜中に目覚まし時計をセットして起き、両親が爆睡しているのを尻目に天空の神秘に思いを馳せる小学生。末はJAXAかNASAに就職？と思いきや、1986年のハレー彗星接近をピークに興味は薄れ、結婚や育児を経る中で「宇宙=自分には関係ないもの」になっていました。が、今回の特集を考えていた時に土星環の消失の話題を耳にし、久々に気持ちが昂る自分に驚いたので。子供も巣立ち、少しは気持ちに余裕もできたのでしょうか。星が綺麗に見え始める秋、たまにはあの頃の気持ちに返って夜空を見上げてみたいと思います。

（白土）

* 参考資料 *



『そうだいすぎて気がとくなる宇宙の図鑑』
渡部 潤一//監修
西東社 K440/ノ



『なぜ?の図鑑 宇宙』
鶴 秀彦//監修
Gakken K440/ナ



『ずかんいろいろな星』
沼澤 茂美//著
脇屋 奈々代//著
技術評論社 K440/ヲ